教出二年下

さけが大きくなるまで　素案

第一次指導　概観

（区画）写真に合わせて七区画　1さけは　2秋に　3やがて　4冬の　5春に　6川を　7海の

一よむ　七名

二とく

○題目

・生活の中の鮭（新巻鮭　イクラ　サーモン）・鮭がどうなる話か。

◎ひびき

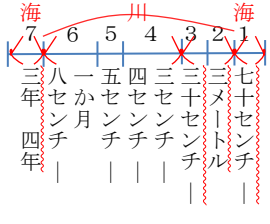
・鮭が生まれる写真　・鮭が大人になった写真（三枚）

○手引き

　出てきた数字と単位をつけて書き出す。

三よむ

四かく（六とくで追加した板書も含む）



五よむ　指黙読　指音読

六とく

○事実・区分

・大人の鮭に関係する数は　・体の大きさの数は

・それ以外の数は　・季節

・三区分（川と海に）中を二区分（大人と子どもで）計　四区分に

◎山　…どこを詳しく読みたいかな。（子どもに聞いてみる）

・卵を産む（3）　・海での鮭（7）

○余韻

　生れた川に戻って卵を産む鮭の一生はすごいなあ。

七よむ　全員で指音読

第二次指導第一時

二とく

○おさらい（区分を意識して）

・生まれた赤ちゃんの大きさは　・その鮭が海に出る時の大きさは

・その鮭が大人になると　・何年で大人に　・そうすると鮭はどこへ

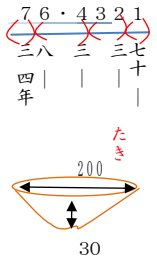
◎承接

・鮭が卵を産む場所にたどり着くまで

○手引き

・たどり着いて鮭が卵を産むところを視写（3）やがて～しまいます。

四かく（六とくで追加した板書事項も含む）



やがて、水のきれいな
川上にたどりつくと、
さけは、おびれを
ふるわせて、すなや
小石の川ぞこをほります。」
ふかさが三十センチ
メートルぐらいになると、
そのくぼみのそこに
たまごをたくさんうんで、みます。」そして、
うめてしまいます。

六とく

○語義・区分

・難しい言葉はありますか。（子どもから出ない時にも確認の質問）

　やがて　たどりつく　おびれ　ふるわせて　そのくぼみ

　うめてしまいます

・三つに分けます。尾鰭を動かしている所二つと産んでいる所です。

◎心

・卵はどのくらい産みますか。（補説　一回に八百個位　四回位）

・それだけの卵を入れるにはどのくらいの穴を掘るのかな。

・深さが三十センチですから上はどのくらいの広さになるのかな。

・それを体のどこで掘るの。尾鰭だね。尾鰭をどう動かすの。

・これは、大仕事です。誰のことを考えて頑張ってるのかな。

・赤ちゃんを守り、育ちやすいようにと考えているのが分かる言葉は。

・この様子を見ていた人が、驚いているのが分かる言葉は。

・卵を産んだ親は、しばらく卵の近くで守っているが、死にます。

○余韻　鮭の親は頑張るなあ。

第二次指導第二時　簡略に記す（前時の様子で修正もある）

二とく

○おさらい

　卵を産む親鮭とその一生の終わり

◎承接

　産まれる時期と様子、海までの様子

○手引き

　鮭と海（7）

　海には、たくさんの食べものがあります。それを食べて、ぐんぐん大きくなります。けれども、さめやあざらしなどに、たくさんのなかまが食べられてしまいます。

六とく

○語義・区分

　海には　ぐんぐん　けれども

　二区分（けれどもの前後）前二区分

◎心

　海の魅力と危険（補説　川に戻れる数）

○余韻　川に戻ってきた鮭はすごいんだ。

第三次指導　漢字を中心にして

二とく

○おさらい

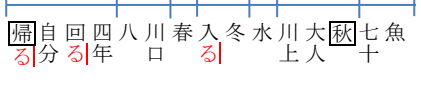
　海のめぐみと危険

◎承接

　卵を持つまでの年数と川へ戻る鮭

○手引き

　脚注の漢字を中心に板書（児童は黙読し、仮名で一行ずつ書かせ、傍線部分には送り仮名を書かせる。下は家で漢字を二回書くように指示）



金魚

秋分の日

三→人→日（筆順の学習）

回転ずし

リ→ヨ→ワ→巾（筆順の学習）

漢字学習の要点

①話に結びつける

②自学自習の力を育てる

③家庭での学習は少しずつ何日かかけて行う。

④大きな字で鉛筆の色を出させる

⑤楽しむ工夫を

五よむ（読む前に傍線部分の送り仮名確認）全員で指黙読後指音読

六とく

○文中の位置　（どの区画に出ていた言葉かを考える）

・北の海にいる鮭と関係のある言葉は（1、7）

・川に戻った鮭の話の言葉は。（2）　・3と5に出ていた言葉は。

◎こもる力　（字眼や利き字を手掛りにして相互に言葉を関連付ける）

・「鮭が大きくなるまで」の話の始まりになる言葉はどれでしょうか。

　〈帰る〉→何時帰る〈秋〉→それは、どうなった鮭〈大人　七十〉

　→どこへ帰る〈自分　川上　水〉→そこで卵が孵るのは何時〈冬〉

　→冬は他の生き物の動きも少なく、赤ちゃんは安全に育つ。また、

　鮭の赤ちゃんは食べ物がなくても平気。どうして〈入る〉

　→袋が取れた鮭の子どもはどこへ行く〈川口〉→それは何時か〈春〉

　→川口で海の水に慣れた鮭は北の海に向かう。大きさは〈八〉

　→北の海で大人になるのには〈四年　回る〉→そういう鮭の話〈魚〉

（発展）音訓遊び三つ位扱い（魚　秋　回）付録の使い方（筆順）

○余韻　鮭は川と海をうまく使って生きているなあ。漢字って面白い。

七よむ　（最初に板書した漢字）指音読　二回　暗唱一回